

今年の流行語大賞は、大方の予想通り「ワンチーム」が選ばれました。ラグビーワールドカップの盛り上がりを考えれば当然の選出のように思われますが、決してそれだけではない、言葉としての魅力があるようにも感じます。同じラグビーから生まれた言葉、「ノーサイド」や「ワン・フォア・オール、オール・フォア・ワン」などと同様、一時の流行ではなく、長く伝えられる言葉になっていくような気がします。

2学期の締めくくりを！

～学校評価へのご協力ありがとうございました！～

本校では学校評価のためのアンケート調査をそれぞれの学期末に1回ずつ、計3回実施しています。昨年度と同様、先月2回目を実施しました。保護者の皆様には、お忙しいところアンケートにご協力いただきまして、誠にありがたく感謝申し上げます。集約した結果については、後日、詳しく記載したものを配布いたしますが、総括した内容について先にお知らせします。

本校では4つの大きな観点にそれぞれ4つ、計16の質問項目を挙げ、それぞれに4段階で評価してもらう形になっています。そして、年度当初にその評価の「全項目3.0以上」を、目標として掲げ、日々の活動に努力して参りました。おかげさまで、1学期同様、保護者の皆様からは「全項目3.0以上」の評価をいただきました。

特に良い評価をいただいたのは、観点3の「他を思いやる心」です。4つの質問内容の3つに0.1ポイントアップした評価でした。生徒も教師も同様に高い評価をしています。高郷中生の心の面の成長は本当に大きいと思っています。特に今学期は花丘祭をはじめとする諸行事において、全校生が力を合わせ、一致団結して取り組むことができたことが、この評価につながっていると思われます。今後も継続してその成長を見守っていきたいと思います。

一方で、保護者の方の評価においては、「3.0」は越えたものの1学期と比べて評価が下がったものが多くあり、今後の課題として重く受け止めて参りたいと考えています。その傾向として特に強かったのは、観点1の「ねばり強い学習」についてで、4つの質問内容のすべてに0.1ポイント下がっています。生徒の自己評価では逆にこの観点到向上が見られることを踏まえ、保護者の皆様の見立ての背景について分析し、学習への取り組み改善に努めて参りたいと思います。

また、観点2「適切な判断力」においては、2つの項目で、0.2ポイント下がっています。「場面に応じた言葉遣い」「集団生活への貢献」です。素直で明るく優しい子どもたちですが、やや幼さを感じる場面も確かにあります。時と場に応じた言動や集団における個の役割などについて、機会を捉えて話していきたいと思います。

2学期も残すところあと2週間となりました。学習、生活の両面において振り返るとともに、しっかりとして締めくくりができるよう、「ワンチーム」で臨んでいきたいと思います。保護者の皆様には、今後とも変わらぬご支援、ご協力のほどお願い申し上げます。



表敬訪問に行って参りました！

11/25(月)、あさって(12/8(日))行われる「少年の主張全国大会」出場のご挨拶に喜多方市役所に行って参りました。遠藤市長様、大場教育長様始め関係職員の皆様が大勢迎えてくださる中、市長公室で出場の報告とご挨拶をして参りました。皆様温かい笑顔でお迎えくださり、お祝いの言葉と励ましの言葉をいただきました。市長さんからは加えて、石山さんの主張「手話から広がる世界」にちなんで、手話での「おめでとう」の言葉もいただきました。地域の多くの方々が石山さんの全国大会出場を喜んでくださっていることを改めて感じました。石山さんもその心に応えるように、「ここまで来られたのは、家族、先生や学校の仲間、地域の皆様のおかげ。感謝の気持ちを持って、手話を広げるために、全国大会でも一生懸命発表してくる。」と、力強く抱負を述べていました。



また、翌日の26日は、高郷支所にも伺い、横山支所長様始め、支所の職員の大勢の皆様から温かい励ましの言葉と応援の拍手をいただきました。この場を借りて改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。



「全校道徳」を行いました！

各学年便りでも取り上げてもらいましたが、7/20と11/21の2回にわたり、校長が全校道徳の授業を行いました。ねらいは「人権について知り、人権問題について考える」ことで、「北朝鮮の日本人拉致問題」を取り上げました。なぜ、この問題を取り上げたかということ、人権を侵害することの恐ろしさ、愚かさを最も表している事件であり、このことを知ることは学校教育においても、人権教育の観点から、非常に大切と考えたからです。ご存じのように、問題はいまだに解決されないばかりか、取り上げられることも少なくなってきました。拉致被害者の家族の心情を察すると、事件の早期解決を願う気持ちはより一層高まるばかりです。かといって、問題解決のために我々ができることはほとんどありません。せめてこの事実を伝えていくことが唯一、私にできることと考え、話をしました。生徒の感想を紹介しますので、ご家庭でも話題にしていただければ幸いです。



私は初めて「北朝鮮の拉致問題」について考えました。ビデオ「めぐみ」を見て思った事は、お父さんお母さんが最後に聞いた言葉が「行ってきます。」という言葉で、いつも通りに学校に行ったのに、夕方、学校から帰ってこなかったというところで、見ていてすごく悲しくなりました。その時のお父さんとお母さんの気持ちは、言葉では表すことができないほど辛かったと思いました。お父さんとお母さんは北朝鮮からの情報で「横田めぐみ死亡」というのを聞きましたが、めぐみさんを探し続けました。私も同じく探し続けると思います。大切な子どもが拉致されたらすごく悲しくなるからです。

私は「拉致問題」についてすごく考えました。すごく悲しく、苦しいことと、強く心に残りました。横田めぐみさんと拉致被害者のことはずっと忘れることはないと思います。

